

彫刻家 能勢孝二郎 個展
NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD

2021年秋 沖縄県の3会場にて開催

前期 10月7日（木）～17日（日） gallery rougheryet

後期 11月3日（水）～14日（日） Luft shop/ RENEMIA

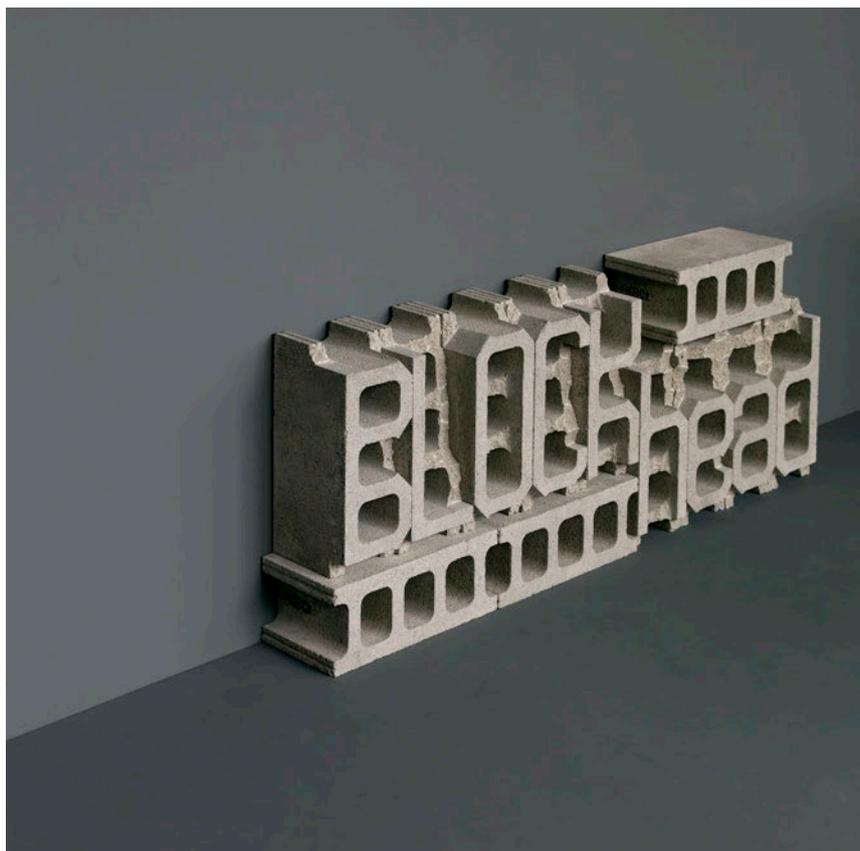


Photo : 岡本尚文

沖縄県で彫刻家として活躍する能勢孝二郎の個展「NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD」を、2021年10月から11月にかけて、沖縄県内の3つのギャラリーで開催します。

彫刻家として沖縄県を拠点に活躍してきた能勢孝二郎は、沖縄の建築に多用されるコンクリートブロックを削り、切り出し、作品制作を行っています。南城市のシュガーホールの壁面レリーフ、沖縄県立博物館・美術館の野外彫刻、沖縄平和祈念堂の平和祈念モニュメントなど、県内各地にシンボリックな作品を提供してきました。

前回の個展が開催された1988年以来、実に33年ぶりの個展開催となる本展「NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD」では、コンクリートブロック単体のシリーズ「A PEACE OF CONCRETE BLOCK」や、文字を削り出したシリーズ「CARVED WORDS」などに加え、スケッチ、エンボスなど、新たな取り組みも含めた50点余りを発表します。

コンクリートブロックの規則的な形状から出現する多様な造形の無限の可能性に触れる、またとない機会です。

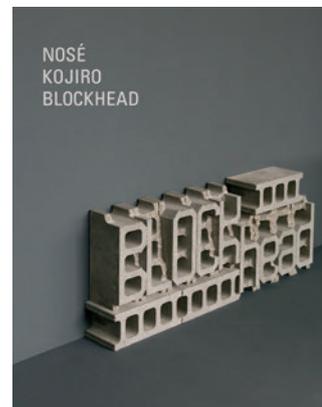
また、展覧会后期の11月3日（水）には、これまでの彫刻作品をまとめた作品集を出版します。あわせてご期待ください。

開催概要

タイトル	NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD (英文タイトル)		
前期会期	2021年10月7日(木)～10月17日(日) / 10月11日(月) 休		
第1会場	gallery rougheryet		
住所	沖縄県沖縄市中央4-1-3 2F (MAP) TEL 090-6630-3597		
時間	11:00～18:00		
後期会期	2021年11月3日(水)～11月14日(日) 【2会場にて開催】 / 11月8日(月) 休		
第2会場	RENEMIA		
住所	沖縄県那覇市牧志2-7-15 (MAP) TEL 098-866-2501		
時間	11:00～16:00		
第3会場	Luft shop		
住所	沖縄県那覇市壺屋1-7-16 #103 (MAP) TEL 098-988-1391		
時間	13:00～18:00		
入場	無料		
特設サイト	https://nosekojiro.com		

作品集概要

タイトル	NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD
発売日	2021年11月3日(水)
価格	¥5,500(税込)
発行	編集工房 東洋企画
版型	210 x 267 mm
ページ数	292ページ



企画	Luft / 真喜志奈美 桶田千夏子
作品集製作	RENEMIA Inc. / 金城博之 桃原天
写真	life goes on Inc. / 岡本尚文 座喜味優
Web製作	NOIPLUS / 砂川和也 崎谷果梨
動画製作	M・PLANT / 新田雅一

展覧会に寄せて

能勢孝二郎氏の作品を余白のある空間でじっくりと眺める機会を設けたいと思ったのは、アトリエに貼られていた膨大な架台（作品の台座）のスケッチ群を見ていたからだ。日々枯れることのない創作への姿勢は、アーティストの才能のひとつである。ありとあらゆる方向から形を考察し、それを次々に展開させながら毎日を送るのは、そう簡単なことではない。私もデザイナーの端くれとして、そう強く感じる。

架台というテーマでどのくらいの案が出せるのか。形状、構造、素材、色。無数の選択肢の中から最適なものを選び、アイソメでスケッチを完成させていく。

終わりのない素振りのような日々。形を追いかける時間。こんな日々を送れたらどんなに幸せだろう、と思うかもしれない。ただ、それは誰にでも続けられることではない。

今回、能勢孝二郎氏のプランにより、以下の3会場で異なる作品を展示いたします。

gallery rougheryet

一つのブロックを削ることで多様な形状を展開する A PIECE OF CONCRETE BLOCK。これまで大規模な彫刻作品を展開してきた能勢氏が、いつか取り組みたいと、思考を重ねてきたシリーズ。

30点の作品と、架台、そして架台のためのスケッチ群も合わせて展示されます。

RENEMIA

ブロックから文字を削り出すシリーズ CARVED WORDS。規則的な形状のブロックを素材とすればこそ生まれるリズム。20点の新作が架台と共に展示されます。

Luft shop

CARVED WORDSの上に紙を置き、その質感を写しとる EMBOSS。CARVED WORDSの立体作品と共に展示されます。会場壁面において、能勢氏の作業風景の映像が投影されます。

RENEMA、Luft shop における会期後半の展示では、今展覧会と合わせて企画した能勢孝二郎氏の作品集『NOSÉ KOJIRO BLOCKHEAD』を先行販売いたします。

Luft / 真喜志奈美 桶田千夏子

展示作品より



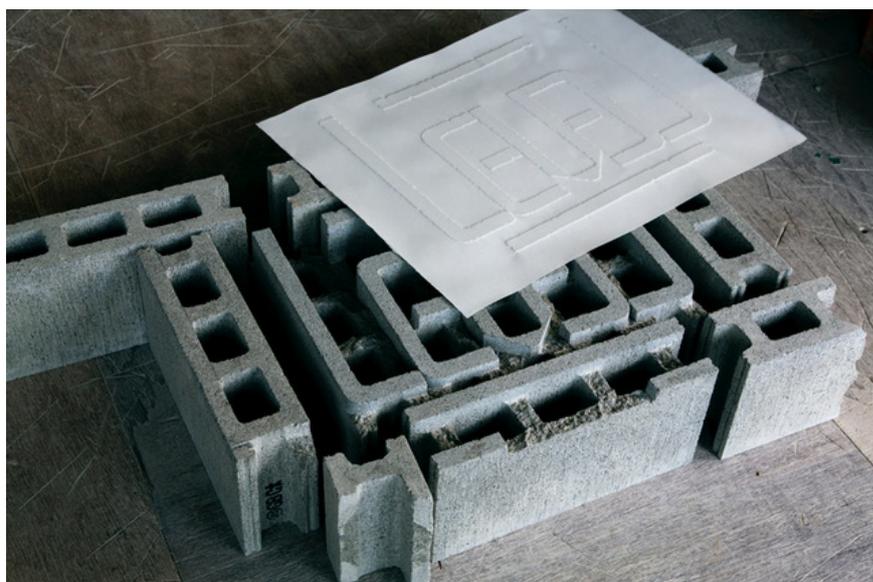
作品：CARVED WORDS
展示会場：RENEMIA



作品：A PIECE OF CONCRETE BLOCK
展示会場：gallery rougheryet



作品：PEDESTAL
展示会場：gallery rougheryet



作品：EMBOSS
展示会場：Luft shop



Photo 座喜味優

能勢孝二郎

1950年 生まれ

1974年 多摩美術大学彫刻科卒業

1976年 多摩美術大学大学院修士課程修了

第2次大戦後、本格的な基地建設に着手した米軍は、沖縄の風物詩である度重なる台風に悩まされていた。資材現地調達方式の結果、沖縄でコンクリート・ブロックの生産が可能ということで量産がスタートし、まるでテントをたてるかのようにコンクリート・ブロックで続々と米軍施設が建てられるようになった。風に強くこのように合理的な建築資材は、もともと屋敷に石垣を積むことを習慣としていた沖縄の人たちに抵抗があるはずもなく、すんなりと民間でも歓迎され、着実に浸透して現在の沖縄の建築風景を作る基盤となり、戦後46年、いつのまにか一種独特の沖縄のアイデンティティをも帯びた素材として見るができるようになってしまった。赤瓦や石灰岩のように。ぼくの彫刻思考は、初めから外的要因の強い屋外に向いていた。雨ざらしの彫刻まるとアウト・ドア派であった。

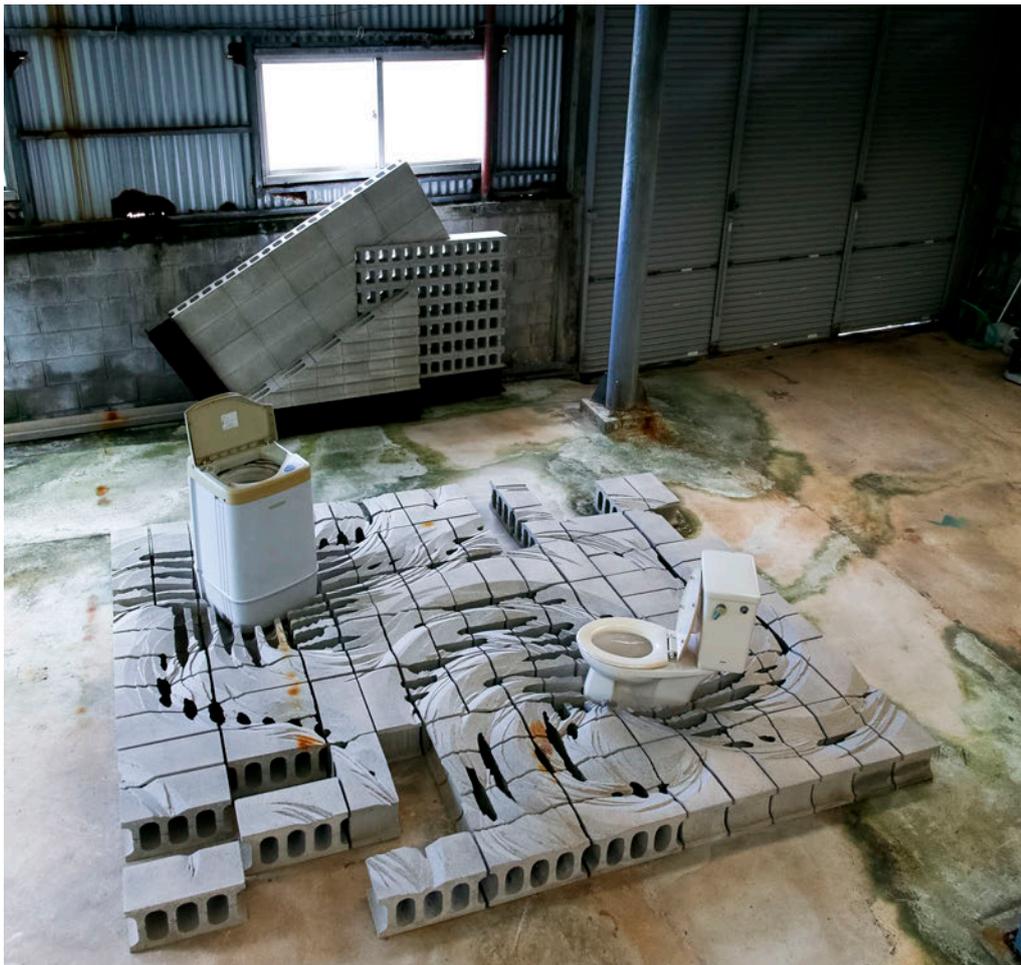
彫刻の素材としてコンクリート・ブロックの再発見とも言える出合いは、一瞬にして、ぼくの目にはすべてのコンクリート・ブロックの構築物が新鮮でいとおしく映るようになった。そして、沖縄で制作することの意義性を与えてくれたのである。足を向けては眠れない。

コンクリート・ブロックの特性を一言で説明するのは難しい。歴史をも取り込んだ多面性があるからである。

今でこそ脇役に回された感もあるが、沖縄の復興を文字通り土台から支えてきた主役であった。風や日差しを堅牢に防ぐが、水に弱くスポンジのようである。積み構造で圧縮力には強いが、衝撃には脆い。彫刻したコンクリート・ブロックを搬送する時などまるで赤子を抱いているようである。しかし、ぼくに言わせれば、それぞれに味があるし、古い壁など苔がむし、中程で少しズレたりして国宝級の趣が感じられ、思わず手を合わせたくなるものも多々見受けられる。不完全な建築資材であるがゆえに、自然に戻りやすいのだ。

文：能勢孝二郎 1991年9月「南島・沖縄の建築文化」その2より抜粋

能勢孝二郎の作品より



《渦》“vortexes” 2008

Photo：岡本尚文

作品制作風景



Photo：座喜味優

コンクリートブロックの作品作りの際には、図面を基に、下書きをし、グラインダー等で大まかな形を作り、細かな部分は、ヤスリや、砥石を利用し、手作業で仕上げる。

お客様お問合せ先

Luft shop

TEL 098-988-1391 (木 金 土 13:00-18:00)

MAIL shop@luftworks.jp

WEB <https://nosekojiro.com>

プレス窓口

HOW INC.

TEL 03-5414-6405

MAIL pressrelease@how-pr.co.jp